

保育プロセスの質 リフレクションシート

はじめに

保育のプロセスの質の向上をめざし、
園内研修での活用を想定してデザインしました。

2018年度より、参加団体、参加者とともに開発を進めてきた「保育プロセスの質 リフレクションシート」も第3版刊行の運びとなりました。また、活用研修は参加団体からのニーズに基づき、複数の形態も模索してきました。

その背景には、参加団体、参加者の渴望ともいふべき必要感と「これならよさそう」という直感があったのではないのでしょうか。ここ数年、社会全体で「働き方改革」が叫ばれ、コミュニケーションの不足により心身の不調を訴える人が少なくありません。特に、「感情労働」が中心の保育・教育現場では、ホールスクールで子どもの健やかな成長・発達を促していく場であるにもかかわらず、専門職として子ども理解を深めていく、また、そこでの感情の交流をもつ機会の減少が課題となっています。

このリフレクションシートは比較的短時間で園内の保育改善や保育者間の共通理解を図れるツールとして作成しております。園内研修のきっかけ作りとして、本シートを活用していただくと幸いです。

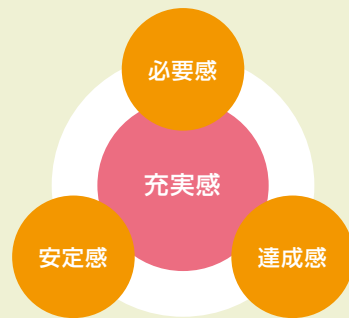
概要

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や
ECERS、SSTEWなどの評価スケールをもとに作成しました。

『幼稚園教育要領解説』等による「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の解説文を読むと、抽象的な言葉が多用されています。例えば、「安定感」、「達成感」、「必要感」、「充実感」などです。このリフレクションシートは、「安定感」、「達成感」、「必要感」を伴った生活や遊びが「充実感」につながると考え、これらのキーワードを軸に編集しています。

みなさんは、抽象的な言葉と実際の子どもの姿をどのように結びつけているのでしょうか。ひとりひとりの保育者が抽象的な言葉を子どもの姿で語り合い、同僚の考えに触れたとき、視野が広がったり、園全体の保育の方向性を確認したりすることが可能となります。研修等での活用方法は、4ページ目をご覧ください。

基本コンセプト



第1部 「基本コンセプトの視点から実践を振り返る」エピソード記述の手順(例)

写真やビデオでは表現できない思索のプロセス

① 【エピソード】 まず、語りたい子どものエピソードを書く

一人の子どもを中心に、ある場面を丁寧に書きます。

- ・環境(ひと・もの・こと)とのかかわり
- ・保育者としての読み取りと援助
- ・保育者としての思い、感情の揺れ など

② 【背景】 次に、対象となった子どもの実態・背景を書く

- ・興味や関心、好きな遊び
- ・友だちとのかかわり
- ・発達の状況、気になること など

③ 【考察】 エピソードから学んだことを書く

- ・なぜ、このエピソードを選んだのか
- ・要領・指針の解説を読み、安心感、必要感、達成感のいずれかの考察
- ・保育者として学んだこと など

④ 【タイトル】 最後に、考察をもとにタイトルをつける

※①～③は文章で書きましょう

第1部

基本コンセプトの視点から子どもの姿を振り返る

先輩や同僚に語りたくなるエピソードから書いてみましょう。

①エピソード→②背景→③考察→④タイトル

対象の子どもの年齢に○をつけてください。[5歳児 ・ 4歳児 ・ 3歳児]

タイトル 考察を短いフレーズでまとめてみましょう。

.....

背景 エピソードに至るまでの状況を文章で

.....

エピソード 一人の子どもを中心に

.....

考察 安定感・必要感・達成感のいずれかの視点から

.....

第2部

基本コンセプトの視点から日常の実践を自己評価する

以下の25項目は、保育者の具体的な姿をもとに、「保育者としての基本」、「指導計画」、「環境構成」、「学びの連続性を意識した援助」、「ESD/SDGs」の視点で構成されています。じっくりと読んで考え、当てはまる数字に○をつけてください。

1…十分に実践している 2…実践している 3…考えているが実践していない 4…全く考えたことがなかった

- | | | | | | |
|----|--|---|---|---|---|
| 1 | 保育者は、抱っこや手をつなぐなど適切な身体的触れ合いを通して、あたたかな雰囲気を出している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2 | 保育者は、子どもの表情や身振りなど非言語的な表現を敏感に感じ取り、適切に対応している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3 | 保育者は、自由な遊びの時間に子どもと個別的な深いかわりをもっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4 | 保育者は、個やグループにかかわっているときでも全体の状況を把握するようにしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 保育者は、ダイバーシティを常に意識し、子どものステレオタイプな行動や発言を冷静に受け止め、対応している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6 | 保育者は、わらべうたや言葉遊び、なぞなぞ、しりとりなど言葉を豊かにする活動を取り入れている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7 | 保育者は、順番待ちリストなど必要に基づき書いている姿を子どもに見せている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 | 保育者は、水を大切に使用したり、リサイクルに心がけたりするなど環境に配慮するモデルとなっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9 | 保育者は、クッキングのときに材料を計量したり、作物の大きさを比べたり、拾ってきたドングリを種類ごとに分類したりして、分類、対応、比較、測定などインフォーマル算数を適切に取り入れている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10 | 保育者は、遊びや生活の中で、いろいろな場面で「美しい形」や「パターン」にふれる機会をつくっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11 | 自園では、車輪のある遊具で走り回ったり、身体を十分に動かして遊んだりする空間をつくっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12 | 保育者は、子どもと話をするとき「足場かけ」(次の段階に進む援助)や「オープンエンド」(答えが一つではない)を心がけている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13 | 保育者は、子どもが描いた絵やつくったものについて、子どものつぶやきやコメントを書きとめ、作品に添付している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14 | 保育者は、子どもがやりたいことを自分で準備したり自分のやり方で遊んだりすることを認め、オープンエンドになるように努めている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15 | 保育者は、ごっこ遊びの中で、子どもの必要感に基づきながら、お店の看板やメニュー、プライスカードなどを子どもと一緒につくっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16 | 保育者は、子どもの記録をもとに、指導計画を作成している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

17	保育者は、個人のペースに応じて次の活動に徐々に移行するような工夫をしている。	1	2	3	4
18	保育者は、個々の子どもの興味や関心に基づいたねがいや手立てを持っている。	1	2	3	4
19	保育者は、素材の変化や磁石の性質など、子どもの年齢にふさわしい科学的な概念に親しめるような環境を計画的に取り入れている。	1	2	3	4
20	保育者は、海外のお話を聞く機会を設けたり、文化の異なる訪問者を招待したりするなど、異なる文化を意識しながら保育に臨んでいる。	1	2	3	4
21	絵本コーナーには、自然、社会、人々の暮らしや仕事など多様な内容の絵本が手にとりやすく置かれており、敷物やクッションなどがあり、居心地のよい雰囲気を出している。	1	2	3	4
22	子どもが、音やリズムを楽しむことのできる楽器が自由に使えるようになっている。	1	2	3	4
23	ごっこ遊びのコーナーには、異なる人種や文化の人形や食べ物が置かれている。	1	2	3	4
24	子どもが何か書きたく(描きたく)になったときのために、紙と鉛筆などが準備されている場所がある。	1	2	3	4
25	保育者は、子どもが協同的な活動を楽しめるような空間や素材の準備に努めている。	1	2	3	4

第3部

園内研修の振り返り

リフレクションシートを活用した園内研修はいかがでしたか？
園内研修で学んだこと、感じたことなどを自由に書いてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

手順

- ① 事前に、報告者は、第1部と第2部を記入し、研修への参加人数分コピーする。
- ② ファシリテーターは別紙の手引きを参考にしながら、共通の課題や中心となるテーマを設定し、研修を進める。
- ③ 第1部：報告者の報告と話し合い
- ④ 第2部：各自日常の実践の自己評価と話し合い
- ⑤ 第3部：園内研修の振り返り

【ある園での活用事例】

- 第1部
毎月実施。子ども理解を深めるとともに、職員間の感情の交流を図る。
- 第2部
年3回実施。人的・物的環境などの改善を図る。
- 学校種間での活用
小学校や中学校との合同研修に活用する。

作成.....田宮緑(静岡大学教授)、静岡県教育委員会義務教育課幼児教育センター

参考文献.....文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館／2018年、イラム・シラージほか「保育プロセスの質」評価スケール」明石書店／2016年、テルマ・ハームスほか「新・保育環境評価スケール①3歳以上」法律文化社／2016年

【本研究は、公益財団法人日本教育公務員弘済会より平成31年度日教弘本部奨励金の助成を受けて行いました】